

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 稲城市立稲城第六中学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0824

稲城市若葉台3-1-1

E-mail inagi6j@educet.plala.or.jp

Website <https://www.fureai-cloud.jp/inagi6j>

生徒数 男子 233 名 女子 207 名 合計 440 名

生徒の年齢 13 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「我をいかし、我々として生きる」を学校理念としてESDを共に生きるための基盤を育成する教育活動として捉え、ESDの実践を通して「コミュニケーションスキルの向上」と「社会参画の力を育む」ことを目標とした。

具体的には、「共に創造し作り上げていく活動」「命の大切さを考え命を守るための活動」「障害者理解を深める活動」「伝統文化の大切さを感じる活動」を行った。

①共に創造し作り上げていく活動

学校行事を中心に、縦割り異学年混合の集団を編成し各学年が役割分担をして活動する場面を意図的に設定している。これにより、コミュニケーションスキルの向上を図ると共に自己の役割を意識し責任を果たすことの大切さを学べるようにした。

②命の大切さを考え命を守るための活動

防災教育を中心に、命の大切さや自分の命と他の人の命を守るため、どのように行動するべきかを考える活動を設定している。具体的には、防災ゲーム（シャッフル・クロスロードゲーム・ダイレクトロード・HUGなど）を生徒の発達段階に応じて実施し、防災に関する知識を得るとともに、実践力を高める。

③障害者理解を深める活動

オリンピック・パラリンピック教育と関連を図りながら、体験的な講演会を実施した。これにより、障害者に対する偏見や差別をなくし共に生きることの大切さを学ぶ機会とした。一人一人が自分の夢をもち夢の実現ために努力することの素晴らしさを感じ取れることをねらいとした。

④伝統文化の良さを感じる活動

国語科の授業と関連を図りながら、義太夫教室を実施した。ただ、見学するだけではなく自分たちも参加し発表する活動を取り入れ体験的な学習を行った。また、校外での学習活動を中心に伝統文化に触れる機会を意図的に設定した。これらにより、伝統文化の良さに気づき伝統文化を大切にすることを育成することをねらいとした。



運動会ソーラン節の演技風景



防災ゲーム(HUG)の風景



障害者理解(あすチャレ School)の風景



義太夫教室の風景

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

稲城第六中学校がユネスコスクールに登録された際の「地域づくりに貢献する生徒の育成」のプロジェクトの核であるとともに、本校 ESD 教育の核ともなる行事として位置付けられるのが『ふれあいの日』である。

毎年 11 月の第一土曜日に行われる本校独自の学校行事で、青少年育成若葉台地区委員のコーディネートの下、地域と学校が連携し、生徒の健全な育成を目的に行われている。

本校の学校教育の基本理念「共育」の柱となる行事でもある。

毎年、若葉台地区と坂浜地区の各自治会に御尽力いただき、工夫を凝らした企画を実施し、昼食を含め六中の生徒を見守り、「つながりの大切さ」や「コミュニティの中で自分の力を生かすことの重要性」を、体験活動を通じて学ばせてくださっている。教員や保護者は、生徒が地域の中で活躍できるようサポート役に回る。

小中連携の視点からこの行事をとらえると、小学生の頃は「地域に学ぶ」という形だったものが、中学生となると「地域と動く」という形に変化するところに重点が置かれている。

③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

- ① 分掌組織の学習指導部に ESD 担当教員を位置付けている。
- ② 各教科の学習・総合的な学習・道徳・特別活動を関連付けた年間指導計画を作成し、計画的・継続的にユネスコスクールとしての活動が行えるようにしている。

④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価自己評価シートの各項目において次のような評価を実施した。

- ① 進路指導… ESD 教育の推進
- ② 生活指導… 人間関係力の構築
- ③ 学校運営… 地域社会との「共育」の推進

アンケート結果としては

- ① 肯定評価の教員 77%、生徒 61%
- ② 肯定評価の教員 85%、生徒 82%
- ③ 肯定評価の教員 85%、生徒 73%

それぞれ高評価を得ることができている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

市内年次報告会において本校のESD教育のカリキュラム・マネジメントの考え方を発表した。市内各校の取り組みと比較検討することにより、より効果的な活動のあり方についてヒントを得ることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

東京都環境局から紹介していただき、本市(稲城市)と多摩市にまたがる「連光寺・若葉台里山保全環境地域」についてNPO法人の代表の方から生徒に講演いただくなど、地域の活動を紹介していただく。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

稲城市教育委員会主催の研修会の受講・・・年1回
稲城市ESD推進委員会への担当教員派遣研修・・・年間6回(そのうち1回は市内年次報告会)

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールとして、教科指導をはじめ学校行などの全ての教育活動をESDの視点で検討することにより、これまで以上に「地域との連携」を重視した「社会に開かれた教育課程」を検討し、組織的・計画的に教育の質の向上を目指すカリキュラム・マネジメントの考えが教員の中に広まった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

4月：「Willノート」活用のためのオリエンテーション
新入生への中学校生活オリエンテーション
5月：ESD講演会「身近な里山保全活動について」
社会人講演会「将棋の世界に生きる」（佐藤康光将棋連盟会長）
オリ・パラ講演会「車椅子バスケの魅力」（神保康弘選手）
6月：オリ・パラ講演会「車椅子ランナーから学ぶ」（廣道純選手）
7月：「届けよう、服のチカラ」プロジェクト説明会
9月：地域防災訓練
10月：職場体験
地域ふれあいの日
11月進路講演会
1月野沢温泉村宿泊体験
2月小正月ふれあいの日
3月ESD卒業プログラム（福祉体験、認知症サポート講座、茶道体験）